

科目	「問2. この授業に触発されて、自分で考えたり調べたりしている。」及び「問3. 自分の興味や関心と関連づけながら授業に取り組むことができた。」から、学生の受講態度についてどのようにお考えですか。選択肢からお選びください。また、改善案があればお書きください。	学生の受講態度
L	学生の興味に個人差があるため、全員積極的な受講態度であったとは言い難いが、約半数以上の学生達は興味・関心をもって授業に取り組めたと感じている。あまり関心を示さなかった学生に関しては、様々な科学的事象を考える時間を与え、自ら学ぶ意欲を高めたい。	良い
L	できれば、授業に関連する本をリストアップし、その概要を記したプリントを配布できるといいと思う。	良い
L	(無記入)	良い
L	(無記入)	普通
L	コメントカードなどでコミュニケーションを図っていたつもりだが、今年はレスポンスがほとんど得られなかった。自主的な学習などにはまったくつながらなかったようなので、次回からは簡単な課題の提出など、自主学習につながるよう仕組みの変更を考えている。	普通
L	各項目で参考になる書籍を紹介するようにしたい。	普通
L	理解しやすい授業内容にすれば、受講態度が向上すると思われます。	普通
L	(無記入)	普通
L	論理学の授業で何かを得るためには相当の集中力が必要で、すべての学生ができるわけではない。全体としては真面目にやったと思う。	良い
L	問2に関しては、どちらともいえないが42%で、ややそう思う18%、あまりそう思わない24%との回答であった。また問3については、どちらともいえない34%、ややそう思う28%、あまりそう思わない26%との回答であった。シラバスに事前予習の課題を提示してはいるが、毎回シラバスを確認する習慣はないと思われる。事前に学びネットにアップした資料に、事前予習の課題をあらためて提示するなどの方法を今後は考えたい。	普通
L	(無記入)	普通
L	(無記入)	普通
L	(無記入)	良い
L	音楽の授業ということで、初回から学生の食いつきはよい。ただ、楽しい中にも学びがないと授業としては成り立たないため、とにかく学生の興味を惹きつけながら、簡単な理論を紹介しつつ、「いい曲だ」と思ったなら、その曲のどこによさがあるのかを考えさせるようにしているが、今後も単に楽しいだけに終始しない授業づくりに取り組む所存である。振り返るに全体の出席率が非常に高かったことも付言しておきたい。	非常に良い
L	学生はヒントが多いとそこに縛られてしまい、ヒントが少ないとなかなか解答を出せないというジレンマを感じている。ヒントに代わるような事例を上手く見せることが出来ればいいのではないかと考えている。	普通

L	レポートの提出内容等、ネットからの直接引用が多く、自分の考えを述べる内容に乏しい。問題の出し方を工夫したい。	普通
L	何か一つの答えを与えるのではなく、常に学生に問題を投げかけ、その課題について各自が考え、調べる意欲をもたせるような工夫をすることが必要。	良い
L	私語もなく、課題プリントにも積極的に取り組んでいた。大半は概ね授業内容を理解できているように見えたが、中には、設問にどのように答えるかとまどいも見えたので、解答が得やすいように、工夫する必要があると感じた。(課題は、授業前に毎回確認し、ポイントはスライドを止めたり、戻したりしたので、一部学生の記述コメントは、遅刻したか、話をしっかり聞いていなかった可能性が高いと思われる。)ただ、スライドのスピードが速く、じっくりと内容を検討しながら課題に取り組む余裕がなかったことも考えられるため、資料を減らす、プリントを毎回配布する等、改善したいと考えている。(今期は、授業の最初と最後にまとめて配布した。)また、ガイダンスで参考資料を挙げたが、各自の学習において生かされたかどうかは不明である。	良い
L	学生の多くは積極的だが、全員となると難しい。残りの学生の意欲をどうするかが課題であり、現在も努力中である。	良い
L	学生の自主的な学びを喚起するよう、教え込むことは極力回避した。	良い
L	年度による差かもしれないが、今年度の学生は全体的に反応が薄く、面白いと思っているのかどうか、あまり良くわからないところがあった。そのため、こちらもコミュニケーションへの志向が減ったところもあるのだが、来年度は、そこを改善し、こちらから積極的に意見を引き出したい。	悪い
L	そう思う」と「ややそう思う」を合計すると42%程度の学生が「この授業に触発されて、自分で考えたり調べたりしている」、49%程度の学生が「自分の興味や関心と関連づけながら授業に取り組むことができた。」と回答しているので、このままで良いと思われるが、新しい話題を取り入れながら興味関心を持たせたいと思う。	良い
L	本授業では毎回、授業の最後にコメントペーパーを書いてもらっていたが、その際、テーマに関わる問いを教員が用意し、学生が個々に自分なりの考えを表現させる形にしていた。そのことは一部の学生には自主的に考えるという意味で良い方向に現れていたが、なかには授業のレジュメを読むだけであまり考えないようなコメントも見られたのは残念だった。自主的な考察に結びつくような問いかけを心がけていきたい。	普通
L	自由記述欄で「フランスの文化や歴史などについての知識が増えたのでよかった」「この授業を通じてフランスを多くの視点から見ることができました」と回答してくれた学生もいたが、こういった学生が今後さらに増えてゆくよう努力したい。その具体的な改善策は現在なお模索中である。	良い
L	個人差があるが、概ね主体的に授業に取り組んでいた。ハノイの塔、一筆書きなど今まで身近に親しんできたパズルなどが数学的に説明するが出来ることに驚きとともに自ら手を動かして問題に取り組んでいた。また、高校までに訳も分からずに学んでいた数学が身近な問題を解決するために使われていることを面白いと感じている学生もいた。(改善案)授業中に行う声掛けによって興味や関心を持ってくれない学生に対するフォローをする。	良い
L	アンケート回答から、宇宙についての興味・関心は高いが、授業外で自ら調べたりする機会が少ない傾向がうかがえる。例えば、学内で開催される天文台の一般公開などへの参加を促すことで、改善したいと考える。	良い

L	<p>授業開始の早い段階で「本を読まない」、「新聞を読まない」学生が多く、多くの情報をインターネットや友人との付き合いで得ていることが多いとわかったので、授業でも「インターネットで収集できる情報」として提示し、そのうえでそれらの情報の確からしさ等の問題に触れたり、ネット情報をきっかけにして確認、調査する手法やその結果のまとめ方を提示したが、「自分で確かめたり、考えたり、調べたり」に発展しない学生やこちらの意図が伝わっていない学生も一部あった。「ウィルスに関する新聞記事3件を読み、要約、及びそれを基にウィルスについて調査」と、具体的な課題の提示には効果があったと思われるので、今後はインターネット情報よりも新聞等を活用していきたい。</p>	良い
L	<p>いわゆる「人権学習」に類する科目では、「触発されて」という動機はあまり望めない(教養科目ならなおのこと)。他方ではこの授業を突破口として、現在の社会問題に「教員になるかもしれない人間」として広く深く学んでもらいたい。そのためには、授業開始までに「指定図書」を示し、それをあらかじめ読んでおくことを「評価」に入れることも考えるべきかと思う。</p>	普通
L	<p>授業の大半が『罪と罰』の購読、ロシアの音楽、美術、バレエについての内容に終始したため、ロシアの政治・経済、歴史等に関心を持つ学生のニーズには十分に答えられなかった点が反省される。今後はそれらの話題も積極的にとりあげていきたい。</p>	普通
L	<p>学生の受講態度は概ね良好だったと思う。自主学習の促しや身の回りの関心事との関連づけについて事例の紹介や参考資料の提示などをしていきたい。</p>	良い
L	<p>本授業では教科書を指定し、授業内容に該当する部分をあらかじめまとめてくるよう予習の指示がしてあった。そのため、個人差はあると思うが、事前に各自で授業内容について考える時間があったはずである。また、移民や在日外国人を取り上げているため、昔のクラスメートなど各自の個人体験に結び付けて内容を理解している学生も多かったように思われる。ただし、「自ら調べる」という行為にまで及んでいる学生はそんなにいなかったと思うので、そのあたりが課題である。</p>	良い

科目	「問13. この授業で設定された教育目標に到達できたと思いますか。」にかかわって、この授業のために設定された教育目標が、どの程度達成できましたか。選択肢からお選びください。また、改善案があればお書きください。	目標の達成度
L	まずは生命科学の奥深さや面白さを感じ、素養を身に付ける事に関しては達成できたと感じた。しかし、達成できていない学生もいたためもう少し分かりやすい例を取り上げることが必要だと感じた。	達成できた
L	(無記入)	達成できた
L	(無記入)	十分達成できた
L	<臨床の知>というあり方は、なんとか学生に伝わったと思います。レポートの感想は「最初衝撃を受けたけれど、繰り返し聞いて納得できた」、「教師になる前に、こういう知のあり方があることを知ることができてよかった」というものが多かったです。	十分達成できた
L	(無記入)	普通
L	よりわかりやすい説明を心がける。	普通
L	今回の「授業内容」は「この授業で設定された教育目標」よりも難解になっていました。ゆえに、授業内容を「ある程度」理解できた学生は教育目標に到達できていると思います。今後は分かり易い授業を心掛けたいと思います。	達成しきれなかった
L	(無記入)	達成できた
L	論理学の授業では本当に理解できているのは十分の一ぐらいの学生のみなので、これでよしとする。	普通
L	知識を与えるという点では、一定の目標は達成できたと思っているが、各自が地球環境問題に対して「自ら環境問題改善のために行動する」というレベルにまで到達したかについては、不明であるが、問9「この授業を通じて、日常生活や社会の課題を認識し、その解決に向けてどのように行動すべきかを考えた」については、そう思う16%、ややそう思う44%と回答しており、ある程度達成できたのではないかと感じている。	達成できた
L	(無記入)	普通
L	(無記入)	普通

L	<p>授業後のアンケートの自由記述を見るに、授業で得た鑑賞や批評の観点に新鮮な感覚をおぼえたもの、受講後の自身に前向きな変化が生じたもの、授業で得たことを早速日常で応用しようとするもの、創作表現において試行錯誤する過程がとても楽しかったと振り返るもの、「表現して伝えることの大切さや楽しさを教員になってからも生かしたい」と将来への意欲へつなげたもの等、Ldの履修が自身により影響をもたらしたと語る学生が多く出たことがうかがえる。これもまた授業がもたらしたひとつの成果といえよう。</p> <p>また、創作表現活動を班で行わせた授業にあっては、コミュニケーションのはかり方を学ぶことができ、同科の同級生の意外な側面に触れたことで科内の親睦が深められたと感じた学生が多く、表現の段階におけるグループワークに意義を見出したとの声が多く寄せられていることは注目すべき点である。最終的に「人とつながる」というところに感性創造の究極の目的があるのではとあらためて気づかされる集計結果となった。</p>	十分達成できた
L	(無記入)	達成できた
L	<p>問1「この授業で、新しい考え方や知識・技能が身についた」には、そう思う・ややそう思うを合わせると76.4%になるが、教育目標に到達できたと思いますかの問いに47.4%の学生がどちらとも言えないと答えているのが残念である。知識や技能を、身近に活用させられるよう興味を持たせることが必要である。</p>	普通
L	(無記入)	普通
L	<p>課題の記述やレポートを見る限り、概ね達成できたと思うが、授業のテーマを十分理解できていない学生もいたように思われるので、もう少し分かりやすく解説をしたいと考えている。</p>	達成できた
L	<p>科学を理解させるのではなく、科学に対する拒否感を取り除くという授業を通しての目標はある程度達成できていると思われる。</p>	達成できた
L	<p>簡単に達成できるような目標は意味がないと思っている。ただし常にそれを念頭において授業を進めるように心がけた。</p>	達成しきれなかった
L	<p>この科目が設置されて2年目で、今年度は昨年と同じ形態を取ったのだが、来年度は、まったく手法を変え、アメリカ映画の歴史から基礎的な知識を学ぶような形にして、学生の映画への興味関心を引き出すようにしたい。</p>	普通
L	<p>現代社会の生活環境における課題を理解し、その解決の方向性を化学の面から探究する素養の修得を目標としたが、文系の学生が多い上、高等学校で化学を履修していない者も見受けられる中で、昨年度目標は少しハードルが高かったと思われる、今年度は、生活に密着している事項をもっと強調して、受講者が自ら興味を持つテーマを取り入れて授業を行った。来年度もこの方向で進める。</p>	達成できた
L	<p>アンケート結果において「そう思う、ややそう思う」が60%を超えていたことから、達成はできたのではないかと考えている。ただ、受講生も60人近くと多かったため、必ずしもすべての学生が積極的に取り組んでくれたとはいいがたい。学生個々に教員がもっと関わっていくような形で授業を改善していきたいと思う。</p>	達成できた
L	模索中。	普通

L	学生の感想を見る限りは十分達成できたということになるが、実際に学生に数学的思考力が身についたかどうか、数学的思考力が今後に生かすことが出来るかどうかは学生次第である。(改善案)今回は複数のトピックを扱い、多くの知識を身に付けてもらおうと考えたため、広く浅くの学問になったかもしれない。トピックを絞り、一つの事柄を深めていくような内容にすることにより、学生が身に付けた知識等が今後に生かせるようになるのではと考える。	普通
L	(無記入)	達成できた
L	当初考えていたグループワークを取り入れることができなかったので、次回は必ず取り入れる。	達成できた
L	3)に示した「あらかじめ読んでおくべき課題図書」の指定など。	達成できた
L	他の文化を知ることを通じて自国の文化・社会を相対化させるという視点の内には、文化相互の差異の認識だけでなく、文化を超えた共通性あるいは共時性を感じ得る視点も含まれているように思われる。そのような観点からすれば、今後は多文化理解を通じた普遍的なテーマの発見と、柔軟で多様な思考方法の涵養の相互作用を結びつけた目標設定も必要ではないかと思われる。	普通
L	・日常生活における身の回りの関心事との関連づけを意識した授業を行う。 ・「鑑賞」が中心であるが、演奏や作曲を「体験」する機会を増やす工夫をする。	普通
L	(改善案) 本授業の教育目標は、第1に日本もグローバル化と「移民の時代」の渦中にあること、第2に日本の在日外国人がおかれた状況とその背景を理解できること、第3にその状況に日本社会がどのように関与してきたのかを考えられるようになること、といった点にあった。学生が提出した小レポートを読むと、おおむねその点に触れられていたが、全員が完璧に理解していたわけではないので、授業中の説明にもっと細心の注意を払う必要があると感じた。	達成できた

科目	「問15. 授業の難易度」、及び「問16. この授業のための週当りの学習時間」に対する学生による評価をみて、どのように考えられますか。また、改善案があればお書きください。
L	難易度はほぼちょうど良かったように感じるが、来年度はもう少し高度な内容を分かりやすく説明できるよう改善したい。また、教養科目のため学習時間はそれほどとらせなかったが、今後はもう少し自宅学習の時間をとらせても良いように感じた。
L	「易すぎる」と「易しい」が1人もおらず、「ちょうどいい」が半数以上を占めたのは、私の目指すレベルにほぼ適っていた。 学習時間は「1時間以内」が最も多い(30%ほど)が、半数以上が「1～2時間」になるような授業にしたい。そのための改善案としては、教科書以外にも本を読ませてレポートを書かせることが考えられる。
L	文系の学生には難しい内容であるので、理系の学生の半分のスピードでゆっくりと講義を進めた。イメージやエッセンスは伝わったと思う。
L	全体的に難易度が高いという評価であった。これに対する改善案はより平易で丁寧な説明を心がけるという点に尽きるであろう。次回はレジメを配ってよりわかりやすい授業にしたい。
L	「難しい、難しすぎる」と答えた学生が多かったです。授業内容が数学的過ぎたのかもしれませんが。数学的な内容を直観的に説明できるように、工夫したいと思います。 科目名が「初歩からの統計」ですので、統計の初歩を詳しく学習するような内容にしようと思います。例えば、「区間推定」や「仮説検定」については、「(母分散が既知の場合の)母平均の推定・検定」のみを扱うことにしたいと思います(「母比率」については軽く触れる程度にします)。
L	難易度をもう少し上げて良いと考える。また、レポート課題をもう少し時間のかかるものにして良いと考えた。
L	難易度については、60%の学生が「ちょうど良い」と回答しているが、「難しい」とする者も24%程度ある。環境問題はある部分、自然科学的内容と社会科学的内容とが、混在しており、専攻によってその違いが現れたのではないかと感じている。 週あたりの学習時間については、32%の学生が「なし」と回答(1時間以内が44%)しており、何らかの課題を宿題として課すような手立てを講じなければならないと感じている。前期と比べると「なし」の割合は16ポイント下がっており、自己学習の時間は増加している。シラバスには事前学習の指示を示しているが、ほとんどの学生はそれを見ていないと思われるので、毎回とまではいわずとも数回に1回は小レポートとして課すなどの手立てが必要である。
L	授業の難易度は、予想どおり問題ないレベルだった。授業のための週当りの学習時間は、宿題を出しているわけではないので、「なし」が多くても仕方ないし、気にしていない。
L	難易度に関してはやや難しいと感じた学生が多いにもかかわらず、学習時間は「なし」が半数以上を占めている。上記のように、授業で用いる資料(画論)はあらかじめ配布しており、授業内容をよく理解するためには予習が必要であると数度指摘している。それにもかかわらず、予習せずに授業に臨み内容が十分理解できずにいるのは不可解である。
L	前年の授業と比較すると、難易度を落としたため、学生からは丁度よいとなっているようだが、私個人としては、もっと難易度を上げたカリキュラムにしたい。しかし、難易度を上げる≒学習時間の増加とはならず、授業について来られない学生が増えてしまうのが現状であり、大きな悩みの種である。
L	問15の「授業の難易度」については83.3%が「ちょうどよい」であり、学生にわかりやすい授業ができたと自己評価している。しかし、学生自身が自己学習に裂く時間が少ないことが懸念事項ではある。

L	(7)への回答にも記したが、課題の提出率は高く、またその内容も大変意欲的なものであったことから、それ相当の学習時間を本授業に充ててくれたものと察する次第である。 今後も学生の学習意欲を高めるためのよりよい工夫を怠らないよう心がけたいと思う。
L	難易度は個人差が大きいので判断しかねるが、様々な学生がいる中で、「デザインは誰にとっても身近なものである」ことを感じさせるという意味ではまずまずの設定であると自負している。また、学生たちが課題を楽しめることをモットーとしているので、嬉々としてプレゼンテーションをしているのを見て、良かったと思う。
L	問15 授業の難易度について、68.4%がちょうどいいと答えている。週あたりの学習時間については3時間以上～なしまでさまざまであり、テストやレポートに取り組む学生の態度の違いがみうけられる。
L	授業の難易度については、ちょうどいいという評価が高かったのでこのままで良いと思う。週あたりの学習時間については、毎回扱う作品を事前に読んでから授業に参加するという形を取っていたので、きちんと取り組んでいけば、ある程度の準備時間が必要になるような授業であった。取り組み方には個人差があるものの、授業内で学生と直接、作品内容の確認や質疑応答をやりとりするような時間を持つべきだったと思う。 アンケートの問16については、「レポートに費やす時間も含む」とあるにも関わらず、「なし」という回答者がいた。最終レポートは全員提出であったため、「なし」という回答者はいないはずである。
L	授業の難易度は、「ちょうどいい」が56.3%であったが、「難しい」「難しすぎる」が34.4%あった。今後、難しい語句に解説を加える等、工夫をしたいと思う。学習時間にはばらつきあり、「1～2時間」～「3時間以上」が21.8%であった反面、「なし」も40%程度あった。時間の差は、文学作品に対する学生の関心の持ち方にもよると思われるが、予習が有効になるように、学生自身の読解と授業で学んだ結果との比較をさせる設問を追加する等の改善をしたいと考えている。
L	こちらの意図と学生の理解はほぼうまくいっている
L	本来的には1時間程度の予習はしてほしい。おそらく7割程度の学生は多少は予習してくれたと思っている。わたしができるのは90分の授業のなかで、可能な限り懸命に考えるよう導くことである。それが精いっぱい。
L	難易度に関しては「ちょうどいい」が61%で、それなりの評価を得た。また学習時間に関しては、1時間ほどの授業外学習をしたという学生が41%あったので、これもまずまずかと思う。
L	授業の難易度については、極端にやさしいわけでも無く、難しすぎるわけでも無く、ちょうど良い42%、難しい35%との回答があるので、このままで良いと思われる。学習時間は、1時間以内33%、なしが26%もあるので、積極的に学習時間を増やせるような、授業内容に関連した課題を課すことを考えている。
L	授業の難易度としては「ちょうどいい」という学生が75%と大変多く、良かったと思う。週あたりの学習時間については個々の学生にもよるが、1時間以内と答えた学生が45%いた。このように比較的学習時間の不十分な学生が多かったのは、発表形態がグループによることも大きく影響していたのではないと思われる。グループの構成員がみな積極的に発表内容に関わっていけるように今後工夫していきたい。例えば、個々の構成員の役割を明確にしたり、また、どのような役割を担ったか学生たちに述べさせたりするような形が考えられる。
L	かなりの程度レベルを落して講義をしたが、そして事実、半数以上の学生が難易度は丁度良いと回答しているが、さらに積極的に授業に参加してもらえるように毎回課題を課し、レポートとして提出させるなり、グループで発表させるなりして、彼らの学習時間をアップさせる工夫が必要だろう。



L	<p>問15: 特になし。</p> <p>問16: 選択科目とはいえ、授業に対するモチベーションが決してある訳ではないと感じている。</p> <p>毎回の授業で課題を与えなかったためか、予習・復習等に費やす受講生の学習時間は少なかつたと思われる。</p>
L	<p>問15. 昨年度く「ちょうどいい」が過半ではあるが、「難しい」「難しすぎる」も4分1程度あることを考えれば、(2)問9の工夫(特に教材資料)をさらに平易化する必要があるだろう。)と記した。今年はこのふまえ、各回の教材資料の分量を軽減し、注解や補足説明を増やした。今年「難しすぎる」という回答はなく、ある程度は改善されたと考える。</p>
L	<p>学生の評価は正規分布的に「ちょうどよい」であったクラスと「ちょうどよい」と「難しい」が混在するクラスがあった。個人的には「ちょうどよい」よりは「難しい」ことにチャレンジさせることで成長を促せると思っているので、まさに、「ちょうどよい」難易度であったと考える。改善案としては数学的に「説明」で終わったところを「証明」にしていければ、と考える。実際、数学好きの学生の中にはちゃんとした証明を見たかったと言う学生もいた。そのような学生が自ら進んで証明しようとする、もしくは、それなりの方向性、ヒントを与えて終える授業展開が望ましい。</p> <p>また、学習時間に関しては特に毎回の宿題を課していないため、回答では平均して少ない時間である。しかし、最終課題にはそれなりの時間を費やしてくれたであろうレポートが多く、普段からの学習時間は少ないけれど、その頑張りはいずれの限りである。改善案の一つとしては、一つの事柄を深めていく授業展開においては一段一段の理解を確かなものにするためにコンスタントに学習する習慣を身に付けさせるべく課題を出していくことになるだろう。</p>
L	<p>受講学生の大部分が理系コースに所属していたため、宇宙物理学の専門的な内容を少し盛り込むようにした。ただ、授業目標の達成度が高い一方、ほとんどの学生の週あたりの学習時間が1時間以内であったことは、授業内容が若干平易だったのかもしれない。</p>
L	<p>この授業のための週当たりの学習時間をみると、46.7%の学生が「なし」と答えているので、学生の負担感はかなり小さいと推測する。</p> <p>授業内容に関連する本を読ませたり、関心を高められるような課題を設定する。</p>
L	<p>授業中に回収した学生の感想などをみる限り、普段から読書習慣のない学生にとって、長編小説(『罪と罰』)を読むこと自体が、かなりの苦痛を伴う体験だったことが伺われた。しかし、だからこそ、授業の中で「半ば強制的」にでも読書をする機会を持ったことは、個人的な信条としては抵抗を感じるが(本来読書は個人的な体験である)、一定の教育効果もあったのではないかと思う。学生たちがそのために費やした貴重な時間と労力は必ず報われると信じたい。</p> <p>欲を言えば、『罪と罰』については、今後も折にふれて再読し、小説のテーマを考究して欲しいと願っている。そのためにも、授業では、より深く、面白くあるいはよりリアリティーをもってイメージを描けるような魅力的な解説となるよう心がけていきたい。</p>
L	<p>一般的に“現代音楽”は難解と思われ敬遠されがちなことを考えれば、学生たちはとても関心を持って授業に参加していたと思われる。その上で、その音楽に興味を持った学生がより理解を深めることができるように資料の提示、参考文献の紹介等を増やしていきたい。授業のための「課題・学習」ではなく、学生自身の心を豊かにするための「楽しみ」としての関わりを促す工夫にしたい。</p>
L	<p>アンケート集計によれば、8割以上の学生が「難易度はちょうどいい」と答えており、私が心を砕いて説明してきた授業内容をある程度受け入れてもらえたかと判断している。一方、学習時間で「1時間以内」が5割であることをみると、少し不十分なように感じる。教科書の予習・復習時間は、私の想定では少なくとも2～3時間かかるので(まじめにやれば)、このあたりの時間がもう少し伸びてくるとよいと思う。</p>

科目	どのような基準で学業成績の結果を出されましたか。提出された成績評価も踏まえてご記入ください。
L	最新のニュースやトピックスに関するレポート、細胞・組織の顕微鏡観察の課題提出、出席、グループディスカッションのプレゼンテーションなどを評価した。
L	レポート3回分の評価が80%（授業での発表担当者はその分のレポートを免除し、発表内容で評価）、出席率に授業内レポートの内容を加味した評価が20%で、その合計を最終の評価とした。約半数がSとなったのは、レポートにおいて書式と内容のバランスを重視し、表現、字句等の細かい点のチェックが少し甘すぎたためかもしれない。
L	出席、レポート、試験結果を総合的に判断した。
L	授業中に書かせたレポート、中間レポート、期末レポートの3点の提出と内容により評価しました。
L	現代的課題であるので、授業で紹介した背景を整理し、そこに自分の考えや気づきを文章としてきちんと表現できるかどうかを判定した。おおまかな課題内容を先に告示し情報収集を促しておき、試験時に制限（文字数やキーワードなど）を提示することで理解ができているかどうかを判定した。
L	レポートの評価はこの授業について関心を持った部分をより詳しく調べて深化させているかどうかという点でつけた。レポートを書く上で必要な形式つまり注釈のつけ方や引用に仕方が水準に達しているのかも加味した。ネット上の情報をそのまま鵜呑みにして、客観的な説明を心がけていない答案が目立ったのでそれは減点対象である。
L	中間テスト、期末テストの結果を踏まえ成績を出しました。
L	まじめにレポート課題（授業に出席していないとできない内容）をこなしているかを主な基準とした。
L	試験は選択式の試験を実施した。授業の全範囲から出題した。試験に際して持ち込みは一切認めなかったのも、あらかじめ学びネットにアップしている講義資料をもう一度しっかり学習しておくように指示した。選択式（マークシート方式）であるため、難易度としては難しいものではないと考えている。他に欠席をその日数に応じて減点した。約4%の者が不合格となった。 自由記述欄に「テスト問題が人によって異なるのは不平等に感じる。」との指摘があったが、選択語群の番号を入れ替えただけであり、難易度には全く影響するものではないので、不平等との指摘はあたらない。むしろカンニング防止の措置として列によって問題を別にした方が良いと考えている。
L	レポートの出来に、出席状況を若干加味した。
L	成績は出席の確認も兼ねて毎回提出を求めたレポート（50%）と期末試験（50%）により評価した。毎回提出を求めたレポートでは、授業内容のまとめを中心に、質問や感想（授業の進め方で改善してほしい点の指摘を含む）の記述を求め、授業の趣旨を理解してまとめられているかを基準に判定した。
L	学生の授業態度（出席率や提出物）と、レポートの質を評価した。

L	<p>■6つの課題(下記参照)それぞれを、なるだけ同点が出ないように1点きざみで完全に順位づけする。合計を課題の数「6」で割った平均を「提出点」とする。  ※ただし、未提出は50点扱いとし、課題を出した日に欠席だった等の事情による未提出についてはカウントしないものとする。</p> <p>■続いて、4班に分けた班活動の成果に対し、4段階で基礎点を与える(1位～4位を決めるということ)。ただ、これだけでは個々の差別化がはかれないため、打ち合わせの際の議長、振付の担当者、台本の執筆責任、ベストパフォーマンス賞など班の中にあつてとりわけよきはたらきが目立ったものについては基礎点に貢献点として相当分の加点を施し、これを「グループ点」とする。</p> <p>■前述の2つ(提出点とグループ点)の平均を「授業点」とする。</p> <p>■最後に、皆出席者には5点、1回だけ欠席には3点、2回以上の欠席には0点、居眠り・騒音等による非協力的姿勢には1回につき-1点という微調整を授業点に加える。  こうして得られた点数を最終評価とするが、振り返るに、妥当性・信憑性ともにきわめて高い最終結果であると自負するところである。</p>
L	出席率、課題やレポートの成績、授業に対する意欲などを総合的に判断。
L	テスト・レポート審査・発表・出席で総合評価した。
L	毎回行う授業後のコメント用紙は、事前準備をしてこなければ授業及び作品内容に踏み込めないため、授業に取り組む姿勢をコメント内容から判断し、成績評価に入れた。コメント用紙の評価に加え、最終レポートでは、授業中に説明したレポートの書き方を踏まえて全体が構成されているかを基準に、内容(論理展開や独自性など)を考慮して評価している。
L	15枚の課題プリントの評価により、平常点(60点満点)を出し、レポート点(40点満点)を加算して素点を出した。課題プリントは、すべてA評価なら60点取れるが、レポート未提出の場合は、不合格となる。成績の割合は、S:8名(19%)、A:15名(35%)、B:14名(33%)、C:2名(4%)、不合格:3名(7%)となり、過半数は、ほぼ合格ラインに達していたが、不合格の学生には、出席日数半数以下で授業を放棄した者以外に、出席数と平常点はほぼ合格ラインに達していたにもかかわらず、レポート未提出により不合格となった者が1名あり、残念だった。(メールにより、事情を確認したが、返信がなかったため、理由は不明である。)
L	授業への積極度、参加度については、出席カードに書かれた講義のまとめの内容からまた3回行ったプレゼンテーション活動、レポートなどを含めて、行動、内容などから総合的に行った。
L	毎回の「対話」の質と量を最も重視した。さらには授業のなかでのプレゼンテーションの内容。後者についてはかなりのレベルで学生たちは頑張ってくれたと思っている。
L	レポートを課し、提出されたレポートで成績をつけた。参考文献からのなまかじりのレポートではなく、つたなくともオリジナル性のあるレポートを高く評価したが、中にはインターネットからのコピー&ペーストで済ませようとする学生もいたので、それらについてははっきりチェックして0点評価とした。全体的にB評価が多かったが、もう少しA評価が出るように、授業全体を見直したい。
L	毎回の授業の最後に課した小レポート15回分、3回の授業外のレポートと1回の実験レポートの合計点数により評価した。
L	授業中の出席率と授業への積極的取り組み具合30%、教員が述べた授業テーマに関する授業後のコメントペーパーの合計評価(全部で10回程度)40%、2度のグループ発表の総合評価(学期前半最後のロシアに関するもの、後半最後の異文化としての日本に関するもの)30%。それぞれを数値化し集計した形で成績評価とした。なお、出席率が3回以上の場合ペナルティとして総合評価から減点している。
L	問題提起の独自性、それについての論述の論理性、展開性、事実関係における知識力。結論の当否はあまり重要視していない。そこにいたるプロセスを重視。

L	出席率、受講態度、授業テーマ別課題プリントの提出、最終レポートによる総合評価。
L	2回の小テスト、レポート、出席状況を総合評価。
L	最終課題を基本に、授業への積極的な参加、取り組みを加味して評価を行った。最終課題はレポートで身の回りの出来事、事柄を数学的に解析することを課した。特に、稚拙な数学であろうが、オリジナルのレポートであることが望ましい。ネットに載っていることよりも自身が本当に不思議に思ったこと、昔から不思議に思っていたことを数学的に解析する、または独自の考察を与えることを望む。また、ネットからの転載であっても、オリジナルな事柄が付け加えられている、もしくは、自分の言葉を使って論理的に書いてある内容であるか。
L	出席を含めた受講態度と期末課題の完成度を併せて総合的に評価した。「小中学生を対象とした宇宙に関するプレゼンテーション」を期末課題としたところ、宇宙旅行双六や、銀河・太陽系模型、巨大星図など、対象相手を意識しつつもアイデアをこらした様々な課題が提出された。
L	出席、授業参加度、課題レポート、試験を数値化して、集計した。質問時の回答内容、意見等によって、適宜加点対象とした。
L	数回提出してもらった「コミュニケーション・カード」は、どの程度授業内容が伝わっているかを見る材料としている。また、その中から、いくつか「きらりと光る」文章を抜粋し、匿名の「コメント集」として、翌週の授業で配布している。学生に「同じ内容を受講しても、こんなことまで考える人がいたのか！」という良い驚きを持ってほしいからである。学生には「コメント集に掲載されても、ただちに成績に反映されるとは限らない」と申し伝えてある。成績評価は、試験での課題に対する論述内容で決まることを常日頃から告知しているし、実際にそのような基準で評価を出している。ただ漫然と全回出席していても「この授業では書けなければどうしようもない」ということが受講生には浸透していると思われる。
L	この授業では、主に二種のレポート課題と授業態度とを総合して成績を評価した。レポートの一つは、授業前半で扱った『罪と罰』の読后感想文であり、もう一つは後半の講義内容を踏まえてロシアについて各自が関心を抱いたテーマを自由に選択し期末レポートとしてまとめるというものであった。いずれのレポートでも「自分の見解が明確に述べられているか」という点を重視した。例えば、『罪と罰』のレポートではグループや授業内での討論を踏まえて浮かび上がったテーマを更に深く考察し自分の意見を形成できている場合、また期末レポートでは、調べたことに加え、そこに現代の日本の社会や文化との差異または歴史的、地理的な関係性について考察が加えられている場合に特に高く評価した。
L	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を通して「感性」や「創造性」をどのように理解したか</li> <li>・自身の設定したテーマにおける「感性」をどのように捉えているか</li> <li>・自身の設定したテーマにおいて「創造」するためには何が必要かについて考察できているか</li> </ul>
L	本授業では、期末のテストを課さない代わりに、授業期間中に5回の小レポート提出が課されており、毎回の予習と復習が義務付けられたかたちである。基本的にはこの5回分のレポート内容の出来不出来と、出席状況を加味して点数がつけられた。

科目	授業改善について、独自に工夫されていることについてお書きください。
L	なるべく興味関心を持つように、板書のための講義だけでなく、パワーポイントを用いた講義や、実際の細胞観察、簡単な演示実験を教室で行ったり、他者とのコミュニケーションをはかるためにグループディスカッションの時間を設けた。
L	レポートはすべて手書きのものを提出させている。それは、本からの情報にせよ、ネット情報にせよ、自分でまとめず不必要に長く説明をするような書き方が、これまで多く見られたためである。多くの情報を使うのはいいとして、レポートではそれを基に自分がまとめた情報や意見を書いてほしい。レポートとは、そのような訓練の場である。 教科書として指定した本の内容についてレポートを課す場合、小さなテーマだと、該当の部分しか読まない学生もいる(レポートの中身からすぐわかる)。本全体の内容を踏まえた上で書くよう、テーマを工夫する必要があると考えている。
L	レポートには、テーマとは別に(評価に関係しないと断って)、この授業の感想や意見を自由に書いてもらうようにしています。それを見て、授業の改善に役立っています。
L	コミュニケーションが取りやすいようにネットなどでの質問も受け付けている(本講義では今年の利用はまったくなかった)。教養科目なので少しでも興味をひくような、平易な内容を毎回の導入にしているつもりである。また、時事ネタも積極的にとりいれるようにしているが、そもそもニュースを見ていないようでもあるので、難しい。
L	自作の問題をプリントとしてほぼ毎回配布しました。
L	授業の方法としては、毎回パワーポイントによる説明を行った。したがってほとんど黒板を使用することがなかった。また時々、環境問題に関するビデオ(録画したテレビ番組)の視聴を行った。今後はもう少しそれを増やしたいと考えている。また教室でのインターネットを介した報道情報も取り入れた。これは前期にまして多く取り入れることができた。 授業における講義資料については、今年度からはじめて、学びネット上での資料を準備することとし、毎回授業開始の遅くとも前日朝までには、ネット上に掲載するよう努めた。全体ではA4で80~90ページの講義資料になった。この方式は今後も継続していく予定である。一番の課題は、受講者とのコミュニケーション(質疑、討論、コメント用紙、ネット等)の充実を図ることである。人数も50名近くになると討論も難しく感じている。質問については、最後にかならず「質問はありませんか?」と聞いてはいるが、反応はない。今後の課題である。
L	Ldの授業としては今回が初めてであり、このアンケート結果を基により良い授業となるよう考えていきたい。
L	学生からの授業に対する要望等を聞くようにしている。

L	<p>① 条件付きの作詩(行頭指定の7行詩)、② 寄せられた歌詞から厳選した一篇に異なる2つの曲が付いたものを比較し、「鑑賞の記録および批評シート」を作成し、集計結果を考察、③ 短い作曲(理科教育講座のCMソング)、④ 自由な作詩(テーマは「6月」)、⑤ 寄せられた歌詞から厳選した一篇に作曲、⑥ 授業を振り返っての感想</p> <p>以上、6点の提出物を課したが、欠席および未提出を含め、提出率は96.0%であり、合わせて275点にもおよぶ提出物それぞれに1点刻みで順位を出すような精細な評価を施したため、その作業には大変骨の折れる思いをした。次年度以降は課題の数を抑えなくては他の授業や業務に支障が出ると思う一方で、課題の数が多いほど詳細な評価の集積に裏打ちされた最終成績評価への信憑性が高まることも経験上明らかであり、なにより学生から寄せられる提出作品に意欲的なものが多いため、提出物の数を減らすことにいささかの躊躇もある。</p> <p>授業においては、さまざまな作曲技法を紹介した上で「作る→比較鑑賞する→批評する」という流れを複数回繰り返したのを経て、5つの歌が完成。それらを用いて音楽劇に仕立てるために、全員が理科という履修生を物理・化学・生物・地学の分野別に班分けをし、それぞれに発表に向けて打ち合わせや練習をさせるわけだが、個々の作品に対する評価だけでなく、この発表に至る過程における班内での個々のはたらきから発表の成果までも評価の対象としている。そのため、授業担当者は幾度も4つの班を巡回してはそれぞれの練習風景を見守り、必要に応じて助言を施すということを行った。この創作表現活動を班で行うことに意義を見出したとの旨のコメントは学生からも多く寄せられている。</p>
L	<p>授業時間に限らず、望む学生に対してはより深く指導するようにしている。</p>
L	<p>昨年に比べて実験などを追加するとともに、学生が興味を持てるような授業内容にしようと努力している。また、授業内容に関わる資格を取るなどした。</p>
L	<p>授業中のコメント用紙に意見を求めたり、授業後に直接学生の声を聞いたりしながら、改善できるところは改善し、授業の流れを考える工夫をした。また、今回のアンケート集計表を確認し、どこが至らなかったのかを検討しながら、授業内容及び授業構成、扱った作品や教科書、資料が適切であったかなど再度チェックして授業改善を心掛けている。</p>
L	<p>授業では、写真、地図、等を取り入れて作品をまとめたスライド資料を使用し、具体的に時代や舞台が理解できるように解説した。また、理解の定着度を確認するため、毎回課題プリント(五問程度の設問)に記述をして提出させた。学生とのコミュニケーションもこの用紙を介して行なったが、中にはこまめに連絡を取る学生もおり、返却を希望する学生にはコピーを配付した。レポート作成にあたっては、事前に書式、テーマ、提出期限、等の注意事項を記載したプリントを全員に配布した。</p> <p>スライドによる授業は、ただ見ているだけの一方通行になりがちのため、できるだけプリント等で記述作業をさせるようにしている。この作業により、学習意欲が高まり、問題点を整理する助けとなると思っているが、同時にノートを取るには、大変忙しい授業となるため、今後は、スライドの枚数を減らして、もう少しゆっくり授業を進めたいと思っている。</p>
L	<p>学生と可能な限り、コミュニケーションを図り、個別の内容についての理解や浸透度を意識している。その反応や意見を講義の内容や説明に随時取り入れるようにしている。</p>
L	<p>教員としてのわたしが重要視しているのは「学生に敬意を払う」ということである。実際、学生から学ぶことも多い。そういうときは学生を褒める。さらには教え込まない授業、問いを提示し、それについて皆で考える授業に心がけた。哲学の授業ではそのことが最も大切であると思っている。</p>
L	<p>先にもふれたように、来年度は授業の形式を全部変える予定で、これを一度やってみて、そのアンケート調査の結果などから、さらに改善を続けて行くつもりである。</p>
L	<p>毎回の授業の最後に課した授業内容に関連した小レポートあるいは授業の感想を書いてもらっている。</p>

L	異文化的なものとして学生たちの注目を引くようなテーマを考え出すことに最初、特に苦勞している。祝祭日の過ごし方ひとつとっても日本とロシアでは大きく異なるが、そういったことについて触れるのにエピソードをいくつも用意していき、学生たちが興味を持ちながら聞き、なおかつ自文化の異質性にも思い至るように組み立てていくことは面白い作業でもありながら、難しかった。その都度その都度考えていかなければならない問題だと思う。
L	模索中。彼らにどうやって「自分の考え」を持たせるか。どうやって「自分の言葉」で表現させるか。
L	テーマの選択は大切であるため、ガイダンス時に受講生の興味・関心について、アンケートを実施している。
L	この授業は今回きりであるゆえ、工夫したことについて言及する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・文系の学生に対するトピック選び：微分積分を使わない数学で記述出来る身の回りにある出来事、現象を取り上げた。また、学生が食いつきそうなトピック、もしくは、毛嫌いしないトピックを選んだ。</li> <li>・また、使う用語も数学的専門用語を使う場合は、必ず分かりやすく、身近な言葉と関連させて数学用語の敷居を下げた。</li> <li>・数学では「定理」その後「証明」、すなわち、「こういうことが成り立つ」その後「なぜなら、・・・」という論理展開が好まれるが、まず手を動かしてどのような事柄が成り立つと思うか予想する、もしくは、どんな特徴があるかを見つけ出し、推測する作業をした後にそれらの予想、推測が正しいかを「確認」という順にした。実験数学と言われる、まさに、数学がいかにして生まれるのかを体現してもらう授業展開を行った。</li> </ul>
L	座学によって習得した知識を、制作活動を通して実際に利用し、両者の繋がりを体感できるように心がけている。
L	現代的課題ということで、環境と健康に関わる、最近の学会等で収集した情報も含めてリアルな課題を提示している。 また、興味関心を持ってもらえるよう、身の回りの環境と健康の問題(シックスクール問題、水環境管理、アスベスト、暑熱寒冷環境)、本学の環境管理とその諸問題を教材として取り上げている。 授業感想、「楽しかった」「初めて知った」「初めて理解できた」「気になって、親に聞いてみた」「(帰省した時に)調べてみたい」「やってみよう」等を参考にし、「わからなかった」については次の授業で追加説明などを行う。
L	毎回出席の確認を兼ねて、学生には簡単なコメント(オススメの本や映画、他の班の発表の感想など)を提出してもらい、次の授業の時にその結果を集計して提示した(匿名)。特に読書感想など普段あまり人と話す機会がないようなことについて、こうした方法も用いながら互いの知識の共有がはかれたのではないかなと思われる。
L	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像資料による興味・関心の引き出し</li> <li>・実際に楽器に触れたり作曲や演奏に体験・参加することによる感覚的な理解の促し</li> <li>・歴史や他分野(他教科)との関連づけ</li> <li>・ゆっくりとした話し方を心がけ、学生からの質問には丁寧に答える</li> <li>・リアクション・ペーパーを通じた学生とのコミュニケーション</li> </ul>
L	他の先生方と比べて、とりたてて独自の工夫というものはないと思うが、一方的な講義スタイルに陥らないよう、授業のなかには数回のグループワークや個人作業時間を設けて、学生に手や口を動かしてもらうという工夫は行った。もちろん、DVDを見せる回も複数あり、なるべく授業中に考える時間をつくってみた。